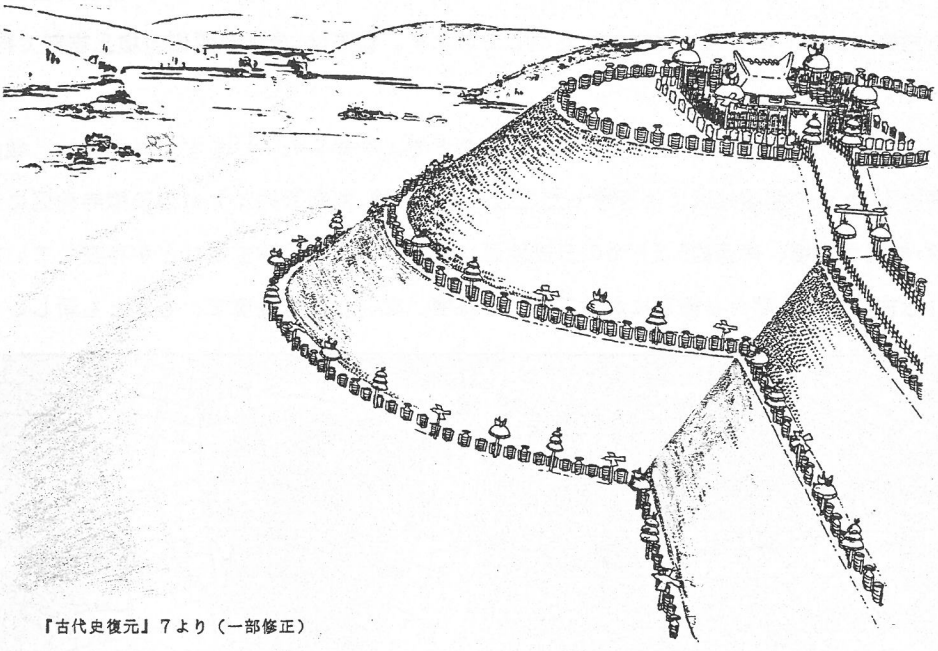
城山古墳発掘調査現地説明会資料



『古代史復元』７より（一部修正）

１９９３年８月２９日

福井県立若狭歴史民俗資料館
立 命 館 大 学 文 学 部

1．はじめに

立命館大学文学部は、福井県教育委員会（若狭歴史民俗資料館担当）の事業に協力し、８月１日より城山（しろやま）古墳の範囲確認のための発掘調査を進めてまいりましたが、成果がほぼ判明いたしましたので、ここにその概要を報告いたします。

なお、調査にあたりましては、上中町教育委員会、大鳥羽地区・長江地区の地主の方々、ならびに鳥羽保育所をはじめとする両地区の皆様より、数々のご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

2．環境

城山古墳は福井県遠敷郡上中町大鳥羽・長江に所在します（図１）。ここは若狭湾に流れこむ北川の流域に発達した谷平野から北に広がる鳥羽谷の一画にあたりますが、古墳は西側の山塊から南東に伸びる小丘陵の尾根上に立地しています。標高は、後円部西側の墳丘裾部で約126ｍほどです。

この上中町一帯は多くの古墳が築かれていることでよく知られていますが（図２）、城山古墳の南約3.5ｋｍの脇袋地区には西塚・上之塚・中塚古墳、南南西約４ｋｍの天徳寺地区には十善ノ森・丸山塚古墳、南西約5.5ｋｍの日笠地区には上船塚・下船塚古墳などが存在しています。いずれも古墳時代中期から後期にかけての大首長墳、ないしは首長墳で、もっとも新しいと推

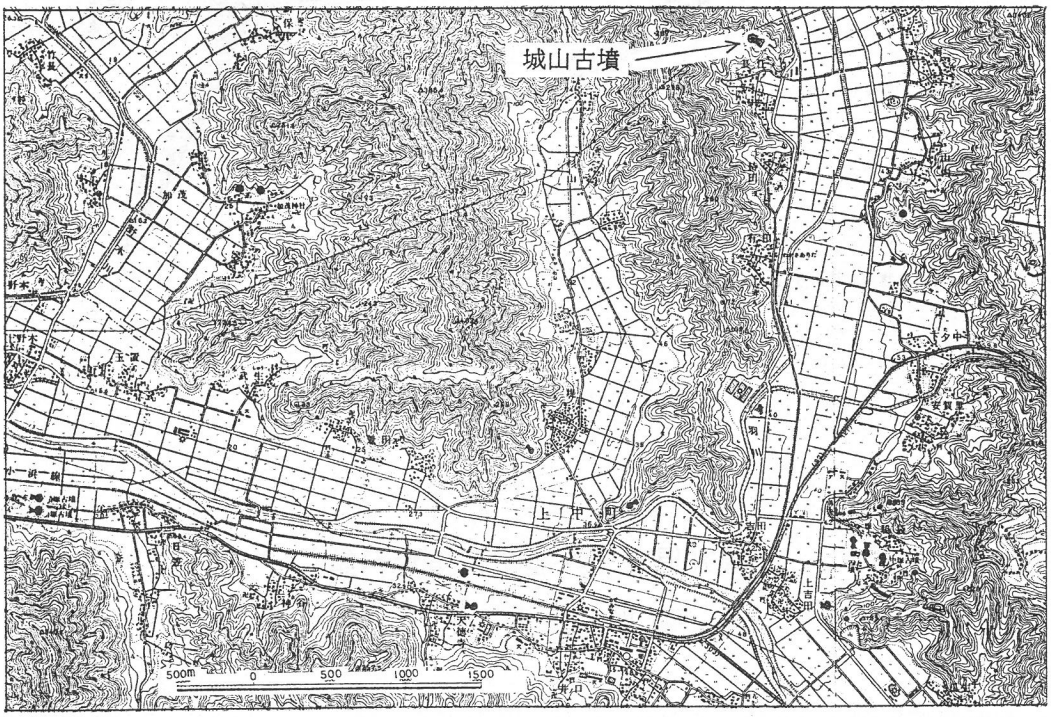


図１　城山古墳周辺地形図（縮尺 1/50,000）

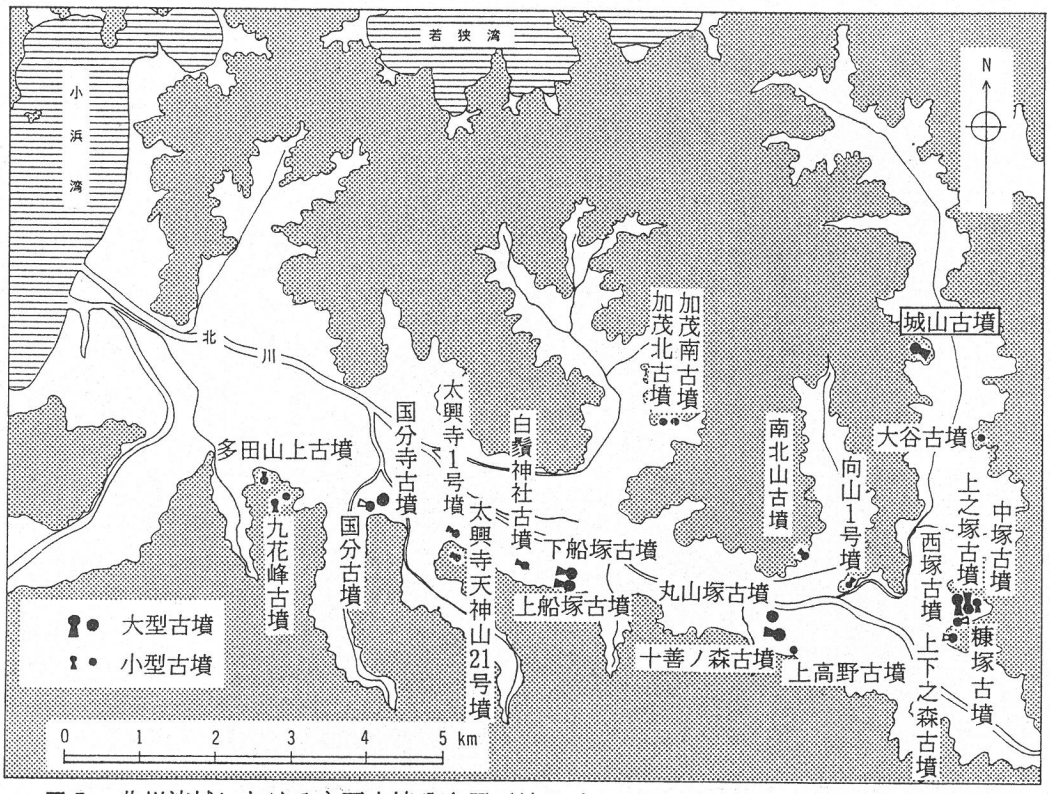


図２　北川流域における主要古墳分布図（縮尺 1/100,000）（『若狭歴民だより』第３号，1993年より）

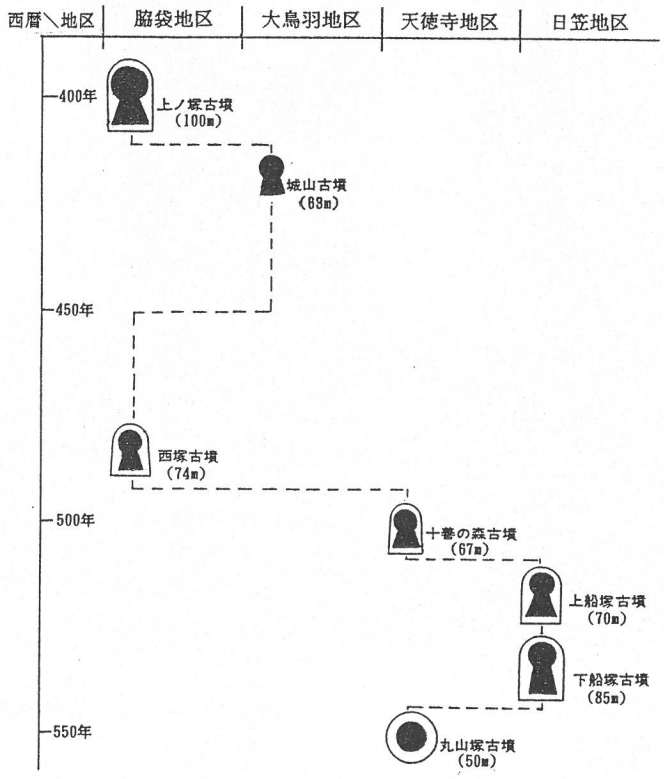


図３　北川流域における大型古墳の編年

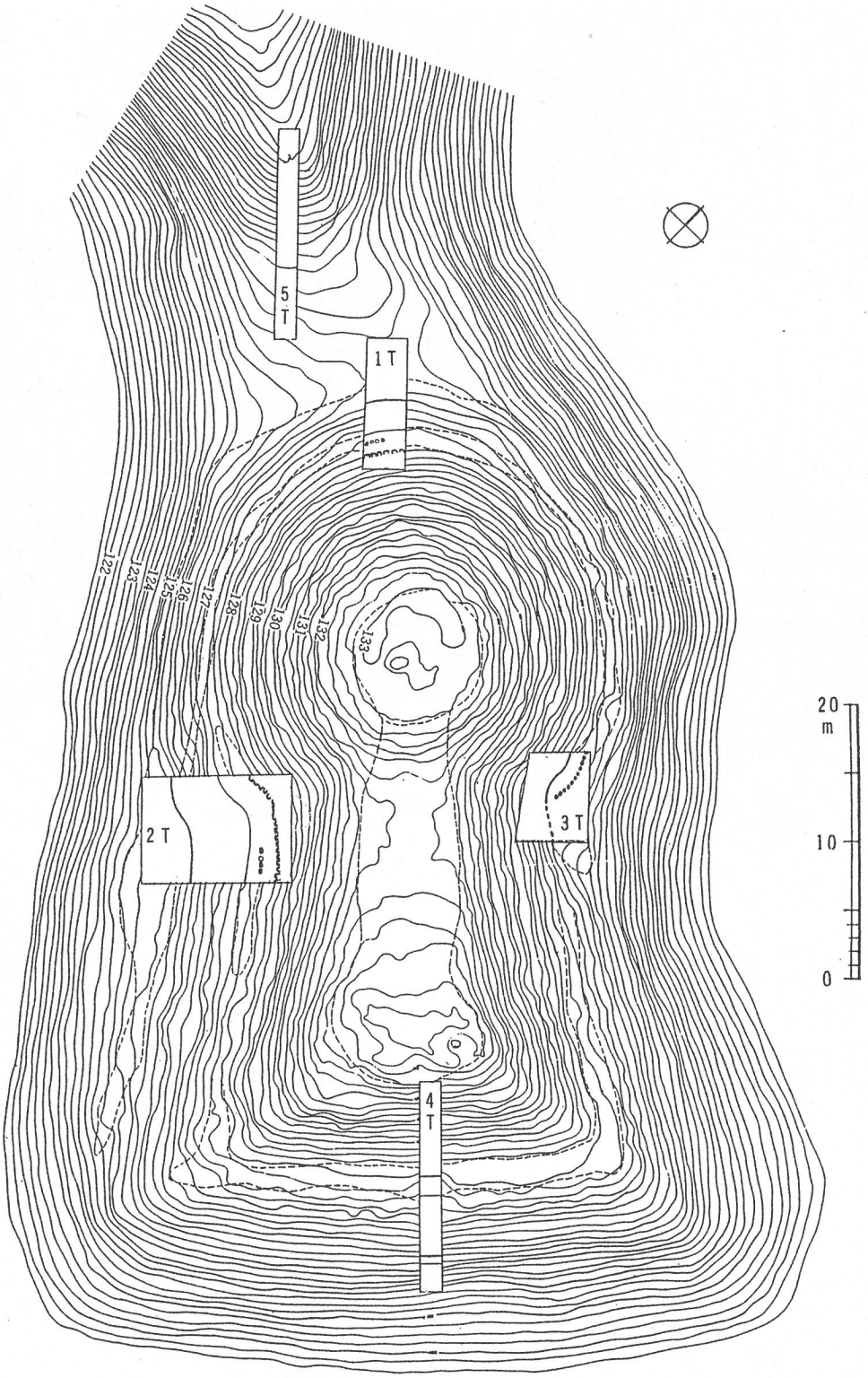


図４　城山古墳発掘調査トレンチ位置図（縮尺 $^{1}/_{500}$）（『福井県史』資料編第13巻，1986年を一部改変）

定される丸山塚古墳以外は、前方後円墳です（図３）。

３．調査の成果

城山古墳は古くより知られていて、現在は上中町指定の史跡になっています。『前方後円墳集成』の北陸編によると、古墳は前方部を南東（ここでは便宜上東としている）に向ける全長約65ｍの前方後円墳で、墳丘は２段に築かれていて、葺石（ふきいし）がふかれ、円筒埴輪列（えんとうはにわ）が備わっているとされていました。

調査の結果はこれをほぼ裏付けることになりましたが、この古墳の発掘調査は初めてのもので、実態をより正確に把握することができました。以下、おもな成果を箇条書きにします。

１．城山古墳は前方後円墳で、墳丘の全長は約63ｍでした。墳丘は後円部の西側から伸びる小丘陵の先端を切り取って営んでいます。この部分で削りとられた地山は深さ約3.3ｍほどです（５トレンチ＝５Ｔ）。したがって、墳丘の大半は地山を削りだして造られていて、盛土は墳頂部のごく一部と考えられます。地山のほとんどは硬質の岩盤です。

２．墳丘は上・下２段に造られています。下の第１段目は後円部西側（後方・１Ｔ）で高さ約1.1ｍ、くびれ部南側（２Ｔ）で2.4ｍ、前方部東側（正面・４Ｔ）で2.6ｍを測ります。２段目は、まだはっきりしていませんが、後円部で高さ約6.3ｍ、前方部東側で約4.8ｍほどと推定されます。ちなみに、後円部頂と前方部頂の高さを比べると、後円部のほうが約0.6ｍ高い。

３．葺石は、後円部西側とくびれ部南側と前方部東側の墳丘第２段目斜面で検出されました。現状では、第２段目のくびれ部北側（３Ｔ）周辺や第１段目の斜面には葺石は施されていなかったものと思われます。石材は握り拳大から人頭大の塊石で、付近の山から採集されたものと推定しています。

４．埴輪列は、後円部西側や両側のくびれ部の第１段平坦面で発見されました。埴輪片は前方部東側の斜面でも出土していますので、ここでも第１段平坦面には埴輪列があったものと考えられます。埴輪列は円筒埴輪と朝顔形埴輪（あさがおがたはにわ）から構成されており、残りのよい北側くびれ部では約十数cm間隔で立てられています。墳丘裾部には埴輪の樹立は認められませんでした。

円筒埴輪（図５－１・２）や朝顔形埴輪は窯で焼かれたものと推定され、古い時期の野焼きした埴輪に特徴的な黒斑（こくはん）はみられません。大半は焼きのあまい赤褐色のものですが、なかには黒灰色のものもあります。埴輪の表面が風化し、表面仕上げのよく分からないものが多いのですが、板状工具の痕（Ｂ種ヨコハケ）をとどめるものがあり、Ⅳ期の埴輪と考えられます。

なお、形象埴輪としては家形埴輪の小破片が出ているのみです。

５．くびれ部南側の墳丘裾部からは須恵器（すえき）の小片（図５－３）が検出されました。６個の透かし孔のある短い脚をもった、高坏の脚部と思われる初期の須恵器です。

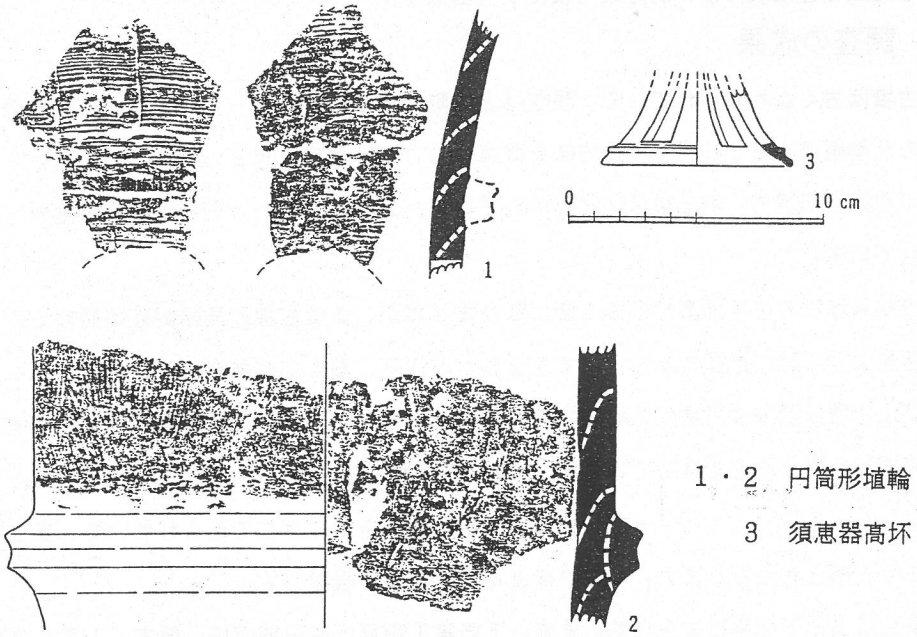


図５　城山古墳出土遺物実測図（縮尺 1/3）
１　くびれ部北側第１段墳丘平坦面出土　　２　後円部南側第１段墳丘平坦面表採
３　くびれ部南側裾平坦面(第２トレンチ)出土

４．おわりに

以上の結果から、城山古墳は５世紀前葉に造られた若狭の大首長の古墳（王墓）であることが推定できるようになりました。そして、発掘調査によってその実態が少しずつ明らかになってきたわけですが、今回の調査は墳丘の一部にとどまったため、まだまだ多くの情報が埋まっています。この古墳は若狭では唯一山の上に築かれた大型前方後円墳でもあり、その実態解明はこの地域の古墳時代史研究に大いに役立つことと思われます。

また、後円部の頂上に盗掘された跡がありますが、それ以外は非常に保存状態のよいものです。上中町の他の古墳とともに史跡公園などとして整備し、活用されることを期待します。